

事例編

1 全ての生徒に対する安心感を高める指導・支援

(1) 学習面

分かりやすい授業づくり

全ての生徒が授業に参加できるようにするために、次のような取組が考えられます。

認め合う関係を育む		分かりやすい環境を整える	
一人一人を認める 授業中のかかわり <ul style="list-style-type: none"> 生徒の発言を肯定的に受け止める 机間指導で生徒の活動を確認し、声を掛ける 努力の過程などの具体的な場面を評価する 理解度に応じた対応 <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の理解度を確認しながら授業を進める 生徒の解答できる問題で指名する 	生徒同士の関係をつなぐ 授業の雰囲気づくり <ul style="list-style-type: none"> 助けを求めたり間違ったりできる雰囲気をつくる 意見の交換・共有 <ul style="list-style-type: none"> ペアワーク、グループワークにより、生徒同士が学び合う機会を設定する 個別の活動後、意見交換の時間を取る 黒板に生徒の意見を書き出し、共有しやすくする 	全体と部分の構造を明確にする 板書の工夫 <ul style="list-style-type: none"> めあてや活動の手順、時間を板書し、見通しを持たせる 全体の流れに磁石を置き、現在の学習の位置を示す タイマーの活用 <ul style="list-style-type: none"> 活動時間の区切りを明確にする 課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> スモールステップで課題を設定し、到達地点が把握できるようにする 	情報を取り入れやすくする 板書の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 板書量を調整し、チョークの色使いを統一する 重要事項は色チョークで囲む ICT機器の活用 <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板等により視覚・聴覚に働きかける 教室環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 教室前面の掲示物等を必要最小限にする

テストの問題用紙・解答用紙の改善

全ての生徒が情報を取り入れやすくするとともに、解答の記入ミスを防ぐために、文字の大きさやフォント、行間の確保やレイアウトを調整することなどが考えられます。

<改善前>

「二」次の文を読んで、以下の問いに答えなさい。
 なまげものが、木の枝に手足を①縮ませてぶらんとぶら下がっているのを見ると、なんとなくそう思っていることが、②ハスカシイことのように思えてくる。そいつらにそういうつもりはないのかもしれないが、暗に「おまえさんはなぜぶら下がらないんだい。」と聞かれているような気がして、そう言われてみるとそう思っていないことの方が(キ)不自然なことのように見えてくるのである。

<改善後>

「二」次の文を読んで、以下の問いに答えなさい。
 なまげものが、木の枝に手足を①縮ませてぶらんとぶら下がっているのを見ると、なんとなくそう思っていることが、②ハスカシイことのように思えてくる。そいつらにそういうつもりはないのかもしれないが、暗に「おまえさんはなぜぶら下がらないんだい。」と聞かれているような気がして、そう言われてみるとそう思っていないことの方が(キ)不自然なことのように見えてくるのである。

<改善前の解答用紙>

I (1)	(2)	(4)
(5)	II (1)	(2)

大問の位置が統一されていない

<改善後の解答用紙>

I			
(1)	(2)	(3)	(4)
(5)	(6)	(7)	
II			
(1)	(2)		

何か書く必要があると思わせてしまう空欄

大問ごとに区切った解答欄

問題がないことを示す斜線

(2) 生活面

生活しやすい環境づくり

全ての生徒が落ち着いて生活できるようにするために、次のような取組が考えられます。

認め合う関係を育む		分かりやすい環境を整える	
<p>一人一人を認める</p> <p>挨拶・声掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> 廊下等ですれ違う際に、生徒の名前を呼んだり、一言添えたりする 生徒の登校時に、教員が昇降口等で出迎える <p>会話</p> <ul style="list-style-type: none"> 面談の機会を設定し一人一人と話をする 生徒の好みや趣味に応じた話をする <p>活躍の場面づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事等において得意なことを生かして活躍できる場面を設ける 	<p>生徒同士の関係をつなぐ</p> <p>学級の雰囲気づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 助けを求めたり失敗したりできる雰囲気をつくる <p>協力する場面づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 係活動や部活動で役割を任せ、生徒同士が協力して物事に取り組む場面を設ける <p>活躍の姿の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> LHRや学級通信などを活用し、生徒の活躍の姿を紹介する 	<p>全体と部分の構造を明確にする</p> <p>見通しの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間行事、月間行事、週間行事を掲示（配布）する 行事までの日程や、事前にやるべき取組、期限などを示す 各分担区における清掃や、各委員会活動等の役割分担を示す 	<p>情報を取り入れやすくする</p> <p>教室環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 連絡事項を小さなホワイトボードに示す 黒板周辺の掲示物を厳選し、全校で統一する ゴミ箱の表示について、「燃えるごみは赤シール」など全校で統一し、視覚的に把握しやすくする

講演会の開催による理解啓発

全ての生徒が自己理解や他者理解を深めることができるようにするために、講演会の開催なども考えられます。

テーマ例	主な内容
共生社会を生きるために	<ul style="list-style-type: none"> 多様な在り方を受け入れること
「多様性」を生かす社会へ～相手を知ること・自分を知ること～	<ul style="list-style-type: none"> 多様性のある社会を作る上で、互いに歩み寄ること 自分の得意なことを生かしながら、苦手なことと折り合いをつけること
「進路」について考える	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなこと、得意なこと、苦手なこと等、自分を多面的に知ること 援助要請の力を身に付けること 多様な人々が共に生きる社会で、それぞれの個性を生かして社会をつくっていくこと

2 通常の学級における指導・支援

事例1：集団生活における困難さが見られるAさんへの指導・支援

【生徒の実態】

- ・真面目で何事にも一生懸命に取り組み、得意な英語には、特に意欲的に取り組んでいる。
- ・集団生活において、場に応じた声の大きさを話すことや順番を守ることが苦手だが、教員の声掛けにより、自分の状況に気付くことができる。
- ・初めての場面や不明確な指示では何をしたいかわからず、不安感からすぐ発言や質問をするが、見通しが持てたり指示が理解できたりすれば自ら行動することができる。

【本人・保護者の願い】


本人	大学に進学し、留学生とも交流したい。
保護者	大学に進学後、社会に出て多くの人と関わりながら自立して生活してほしい。

通常の学級における指導・支援（1～3年）

【長期指導目標】

1年	学校生活におけるルールを意識して生活することができる。
2年	不安になった時の対処法を身に付けることができる。
3年	自分に合った進路先を選択し、進路先への引継ぎに主体的に関わることができる。

【指導・支援】

	本人の取組	指導・支援の内容	取組状況・生徒の変容
1年	①自分の言動の特徴を知り、目標を考える。	○面談等において、うまくいっていることを認めつつ、学習や生活上の困難な状況について振り返らせる。 ○Aの思いや言動の背景を言語化できるよう、質問しながら考えを整理させる。 ○学期ごとの目標を自分の言葉で考えられるよう支援する。	・自分の言動の良かった点や改善点について、自ら気付くことが多くなった。 ・設定した目標を養護教諭に伝え、目標達成に向けた意欲を持つことができた。
	②学校生活のルール（順番を守る、場に応じた声の大きさ等）を意識して生活する。 	○ルールを提示し、意識させる。 ・ペアワークやグループワークのルールの明確化（全体への周知） ・声の大きさによる意識化（ペアでの話し合いは「2」、クラスでの発表は「4」など音量を数値化し、場に応じた声の大きさを意識させる） ○ルールに気付いてほしいときのサインを決めておき、合図をすることで、Aの気付きを促す。 ○ルールが守れなかった時は、時間を空けず、休み時間等に振り返る機会を設ける。	・自分で音量がどれくらいなのかを意識することができるようになった。 ・教員の話や話を遮って質問するとクラスメイトが困ることなどに気付くことができた。 ・授業やHRにおいて、教員やクラスメイトの話が終わってから質問や発言ができるようになった。

2年	③不安になった時の対処法を身に付ける。	○初めての場面や指示内容が分からない時など、不安になる場面について具体的に確認させる。 ○不安を軽減する方法を一緒に考える。 ○対処法について練習の機会を設ける。	・「困ったら教員に尋ねる」等の対処法を知り尋ね方の練習をしたことで、初めての場面でも安心して参加することができた。
3年	④自分に合った進路選択を行う。	○興味関心のある学科選択に加え、通学方法や大学の支援体制等についても情報を収集し、提供する。 ○自分で進学先について検討することができるよう、情報の収集方法等について教える。 ○オープンキャンパスへの参加について促す。	・オープンキャンパスに参加するなどして大学の支援体制等について確認した。 ・学びたい内容と支援体制の両面から総合的に判断して志望学科を決めることができた。
	⑤必要な支援を進路先に伝えられるようにする。	○個別の教育支援計画を作成する段階で卒業時の引継ぎについて本人・保護者の同意を得る。 ○日頃から支援を受けてできることの大切さについて理解を図る。 ○進路決定後、本人・保護者とともに引継書を作成し、進路先への引継ぎを実施する。	・引継書の作成に当たって日頃の支援を振り返り、進学先で必要な支援について考えることができた。

校内支援体制

<p>○校内委員会での検討・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握、指導・支援の内容の検討、指導・支援の見直し、評価 等 <p>○校内の主な役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR担任・副担任：本人への指導・支援の実施、保護者との面談 等 ・特別支援教育コーディネーター：校内委員会の開催、校内の調整、指導・支援の見直し 等 ・養護教諭：各学期の目標を聞く等の指導・支援のサポート、本人に係る情報の収集 等 ・進路指導主事：進路に係る指導助言、支援情報の引継ぎ 等 <p>○関係機関等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校との連携：入学前に支援情報の引継ぎを受け、入学後も本人・保護者了解の下、情報共有を行った。 ・特別支援学校のセンター的機能の活用：実態把握に係る助言や、「声のものさし」等の指導の助言を得た。

【生徒の変容】

<p>Aは、担任やクラスメイトとの温かい人間関係の中で、得意なことを伸ばしながら、苦手なことについても自分なりの対処法を身に付けることができた。</p> <p>進路先への引継ぎについては、本人・保護者が担任とともに大学に出向いて行った。入学後早期にお願いしたい支援事項や高校生活でうまくいった方法について伝えたことで、Aは大学進学という大きな環境の変化にも適応することができた。</p>

3 通級による指導



事例2：書くことやスケジュール管理が苦手なBさんへの指導・支援

【生徒の実態】

- ・板書の書き写しが苦手で時間がかかり書き間違いも多いが、書くことに前向きで、写し終わらないときは友達にノートを借りるなどの努力している。
- ・スケジュール管理が苦手な課題等を提出できないことがあるが、担当教員に伝えることができる。
- ・指示や説明等の情報を正確に伝えることは難しいが、自分の興味・関心の高い話題については教員や友人に積極的に話すことができる。

【本人・保護者の願い】

本人	課題をきちんと提出したい。専門学校に進学したい。
保護者	学校からの連絡事項を理解して伝えられるようになってほしい。

通常の学級における指導・支援（1年 4月～10月）

【長期指導目標】

ノートや課題を提出できる回数が増える。

【指導・支援】

本人の取組	指導・支援の内容	取組状況・生徒の変容
①必要最小限の書き写しを行う。	○書く量を調整し、必ず書き写してほしい箇所は黄色のチョークで板書する。	・努力したが、書写への抵抗が大きかった。
②メモの取り方を知り、メモを活用して生活する。	○メモ帳を用いたメモの取り方を教える。 ○担任や教科担任がメモを取ってほしい内容について具体的に伝える。 ○重要な連絡はメモにして渡す。	・指示によりメモを書くが、自らメモを取ったりメモを活用したりすることが難しかった。

■「放課後の指導」の検討

- ・Bが努力している様子は見られたが、ノートや課題の提出状況に改善が見られなかった。困難さを改善したいというBの意思を確認し、自分に合った書き方やスケジュール管理の方法について学ぶために通級による指導を見据えた「放課後の指導」を行うこととした。

放課後の指導（1年 11月～3月）

【指導内容】（1年 11月～3月）

学習内容	指導上の留意点	取組状況・生徒の変容
③書写についての自身の特徴を知り、書きやすい方法を知る。	○Bの好きなジャンルの文章を扱い、実際に書写をさせながら、様々な視点から気付かせる。（マス目の有無や文字の大きさ、横書きと縦書き、書写の速度、筆記用具の持ち方等）	・書写の特徴について気付くことができた。 ・文字を書くことへの抵抗が減り、ノートや課題の提出状況が改善した。

■「通級による指導」の検討

- ・「放課後の指導」により文字を書く困難さの改善が見られ、学習にも意欲的に取り組めるようになってきたことから、2年生から「通級による指導」として指導を行うこととした。

通級による指導（2年）

【長期指導目標】

スケジュール管理など、必要な情報を整理することができる。

【指導内容】

学習内容	指導上の留意点	取組状況・生徒の変容
④メモの取り方を学ぶ。	○ワークシートを活用し、情報の整理の仕方を学ばせる。 ○日常生活でもメモを取るよう促す。	・連絡事項についてメモを取る方法を身に付けることができた。
⑤スケジュール管理の方法を身に付ける。	○行動にかかる時間を可視化させる。 ○スケジュール帳に見やすく書く方法を確認させる。 ○スケジュール確認の方法を考えさせる。	・逆算して行動することを理解できた。 ・就寝前のスケジュール確認が習慣化できた。

■「通級による指導」継続の検討

- ・進路実現に向けた不安が大きいことから、3年生でも「通級による指導」を継続することとした。

通級による指導（3年）

【長期指導目標】

自分に合った進路先を選択し、進路先への引継ぎに主体的にかかわることができる。

【指導内容】

学習内容	指導上の留意点	取組状況・生徒の変容
⑥進路に関する不安への対処法を知る。	○専門学校への進学を実現するために必要な力について考えさせる。 ○不安について対話を通して言語化させる。	・専門学校に進学した時の不安とその対応について具体的に考えることができた。
⑦必要な支援を進路先に伝えられるようにする。	○進路先において想定される困難や必要な支援について具体的に考えさせる。 ○進路決定後、本人・保護者とともに引継書を作成し、進路先への引継ぎを実施する。	・進路先で想定される困難や必要な支援について、具体的に考えることができた。

校内支援体制

○校内委員会での検討・評価

- ・放課後の指導や通級による指導実施の検討、指導内容の検討、指導の見直し、評価 等

○通級による指導に係る主な役割分担（通常の学級との連携）

- ・通級担当教員：通級による指導の実施、HR担任や教科担任等への報告、連絡 等

- ・教科担任が、ノート確認時、板書が写せたことや丁寧に書けていることを認める。
- ・メモを取る習慣が定着するよう、担任や教科担当者が声掛けをする。
- ・スケジュール帳の活用ができていないか、担任が確認する。（保護者への協力依頼）

- ・特別支援教育コーディネーター：校内委員会の開催、通級による指導に係る調整 等

- ・進路指導主事：進路に係る指導助言、支援情報の引継ぎ 等

○関係機関との連携

- ・中学校との連携：入学前に支援情報の引継ぎを受け、入学後も本人・保護者了解の下、情報共有を行った。
- ・特別支援学校のセンター的機能の活用：実態把握や個別の指導計画作成に係る助言を得た。

【生徒の変容等】

- ・Bは、書写への抵抗が少なくなり、スケジュール管理ができるようになったことで、期限内に提出できる課題が少しずつ増えていった。また、自信がついたことで教室での表情も明るく、活発さが増した。さらに、困ったときに誰にどのように相談したらよいかを考え、進学先への引継ぎにおいても、支援してほしい内容について自分の言葉で伝えることができた。

事例3：友達との関係づくりが苦手なCさんへの指導・支援

【生徒の実態】

- ・友達と良好な関係を築きたい思いがあるが、物事を否定的にとらえる傾向があり、人との関わりに自信が持てず、教室では一人であることが多い。
- ・自分の気持ちがうまく表出できず、戸惑いが強くなると動けなくなってしまうことがあるが、十分に待つと、落ち着いて話をするができる。
- ・自分の気持ちや考えはしっかり持っているが、言葉に表すことが難しい。

【本人・保護者の願い】

本人	友達と話をするできるようになりたい。
保護者	安心して学校生活を送ってほしい。

通常の学級における指導・支援（1年 4月～8月）

【長期指導目標】

困ったことがあったときに自分から相談することができる。

【指導・支援】

本人の取組	指導・支援の内容	取組状況・生徒の変容
①困っていることを担任に伝える。	○面談により話す機会を設け、担任に話しかけやすい環境を作る。 ○表情の変化等に応じて声掛けをする。	・担任のところに来ることはできたが自分の状況等を伝えることはできなかった。
②クラスの生徒と話せそうな場面で話をしてみる。	○休み時間等に担任がさりげなく話し掛け、周囲の生徒と会話の機会をつくる。 ○グループ学習でやりとりを支援する。	・担任等が介入した場面では、少し話をする事ができた。

■「放課後の指導」の検討

- ・Cは漠然とした不安を感じる事が多く、それを適切に言葉で伝えることができず、動けなくなってしまうことがある。課題を提出できなかったことがきっかけとなり、必要なことをきちんと伝えられるようになりたいという思いから、通級による指導を見据えた「放課後の指導」を行うこととなった。

放課後の指導（1年 9月～3月）

【指導内容】

学習内容	指導上の留意点	取組状況・生徒の変容
③学校生活や対人関係について、自分を多面的に理解する。	○質問を交えながら、学校生活や趣味等について話すよう促す。（特にうまくいっていることに焦点を当てる。） ○友達との会話において、うまくいったとき、うまくいかなかったときについて具体的に振り返らせる。	・趣味や頑張っていることについて自信をもって話すことができた。 ・学校外の友達と良好な関係を築いていることを確認できた。

■「通級による指導」の検討

- ・「放課後の指導」により自己理解が進み、自身を肯定的に捉える場面が増えてきた。また、担任に困っていることを伝える機会も増えてきたことから、2年生から「通級による指導」として引き続き指導を行うこととした。

通級による指導（２年）

【長期指導目標】

話しやすいクラスメイトに自分の気持ちや考えを伝えることができる。

【指導内容】

学習内容	指導上の留意点	取組状況・生徒の変容
③コミュニケーションの方法について学ぶ。	○友達に話しかける場面を設定し、距離の取り方や話題、話し方等を考えさせる。 ○会話の中で自分と異なる意見が出たときの対応について考えさせる。	・友達と話したいという気持ちが強くなった。 ・クラスメイトに声を掛け、話をする事ができた。
④不安になったときの対処法を考える。	○学習面や生活面の不安な出来事について、その気持ちや行動を振り返らせる。 ○不安のメカニズムについて説明し、不安への対処法について考えさせる。	・不安な気持ちは持続しないことを確認できた。 ・相談により不安が軽減できることに気付いた。

■「通級による指導」継続の検討

- ・クラスメイトに声を掛けたり共通の趣味を持つ生徒と談笑したりすることができるようになり、その成果が個別に設定された指導目標からみて満足できると認められたことから、通級による指導は終了とし、通常の学級において個別の指導を継続することとした。

通常の学級における指導・支援（３年）

【長期指導目標】

自分に合った進路先を選択し、進路先への引継ぎに主体的にかかわることができる。

【指導・支援】

本人の取組	指導・支援の内容	取組状況・生徒の変容
⑤必要な支援を進路先に伝えられるようにする。	○友人との関係づくりを見守り必要に応じて介入するなどの支援を継続する。 ○進路先で想定される困難や必要な支援について考えさせ、引継書を作成する。	・進路先での他者とのかわりや必要な支援について考えることができた。

校内支援体制

- 校内委員会での検討・評価
 - ・放課後の指導や通級による指導実施の検討、指導内容の検討、指導の見直し、評価 等
- 通級による指導に係る主な役割分担（通常の学級との連携）
 - ・通級担当教員：通級による指導の実施、担任や教科担任等への報告、連絡 等
 - 〔・担任や教科担任は、Cが自分の気持ちを伝えられたとき肯定的に受け止める。〕
 - 〔・担任は、友人との関係づくりを見守り、必要に応じて関係をつなぐ。〕
 - ・特別支援教育コーディネーター：校内委員会の開催、通級による指導に係る調整 等
 - ・進路指導主事：進路に係る指導助言、支援情報の引継ぎ 等
- 関係機関との連携
 - ・中学校との連携：入学前に支援情報の引継ぎを受け、入学後も本人・保護者了解の下、情報共有を行った。
 - ・特別支援学校のセンター的機能の活用：実態把握や個別の指導計画作成に係る助言を得た。

【生徒の変容等】

- ・Cは、自身のうまくできている関わりなどに気付き、自信が醸成されたことで、自分からクラスメイトに関わることができるようになった。また、不安になったときにどうすればよいかを具体的に考えることで、安心して物事に取り組めるようになった。

